

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Structure of noun predicate and adjective predicate

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石綿, 敏雄, ISHIWATA, Toshio メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.15084/00001040 |

名詞・形容詞述語文の構造

石 綿 敏 雄

0. 概要と結論

これは昭和 45, 46 年度文部省科学研究費による総合研究 (A)「日本語の電子計算機処理のための基礎的研究」(代表者岩淵悦太郎)に関する報告の一つである。

この研究は形容詞あるいは名詞+コピュラの形でできている述語の形をデータによって解析し、日本語を語彙・文法論的に記述しようとするものである。日本語の文の構造を機械的に認識しようとするとき、従来の国文法の方法とは別に、そこに含まれている成分のそれぞれの性質を明かにしておき、解析の際これを利用するという方法をとらざるを得ない。そこで語い論と文法論を別々に扱うのでは有効でなく、これを総合した立場で、考えてゆく必要がある。

この研究はこのような方法で形容詞、名詞+コピュラの形の述語の性質を明らかにしようとしたが、動詞については同じ方法ですでに作業を終わり、国語研究所報告 49, 51 および国語研究所論集 4 のなかで発表した。これで日本語の文の中核をなす述語の構造についてのスケッチを一応すませたことにする。データ及び方法は動詞のばあいと同じなので、それを参照されたい(特に報告 51)。

結論——名詞述語は主語と述語のワードクラスが同じものところがうものに大別することができ、前者は一種の同定判断、後者はそれとはちがった何らかの判断で、後者のなかにはいくつかのタイプがあり、たとえば、時間、数量、原因動機、のばあいにはそれらを示す用語が主語か述語のいずれかに存在することなどがわかった。

形容詞述語のばあいには、形容詞にも動詞と同じような Valenz (結合価) が存すること、形容詞のばあいには「が」「に」「と」などの助詞が主として用いられること、その前にくる名詞にも一定のタイプがあること (あるいはその制限がないこと) がわかった。日本語の形容詞の Valenz のリストは 2.f. にまとめた。

これからの課題——名詞文については判断の種類をさらにくわしく調べて、recognition grammar のアルゴリズムを組み立てる。形容詞は動詞に準じて、まとめて同様に扱う。ことに用言に伴う名詞の意味特徴をさらに多くのデータについて調べる。

1. 名詞述語の構造

ここでは名詞に「だ」「です」などがついて述語となるばあいを扱いたいと思う。文体によっては「だ」「です」が表現されないこともある。副詞などが名詞の位置に立つこともある。このばあいを、まず主語のワードクラスと述語のワードクラスが一致するばあいと、そうでないばあいとに分ける。

a. 主語のクラスと述語のクラスが一致するばあい。

【人間関係】△担当者の定義によれば「同じ地域に住んでいる同じ年令の子どもに比べ、ひどく違った話し言葉を使う子ども」が言語障害児だという
△本人または扶養家族が身体障害者であるとき ○我々が露悪家なのはいいですが先生時代の方が偽善家なのは、どういう意味ですか ○上の兄さんが広田先生のお友達だって ○この中にいる人が、野々宮君の妹で ○その上貸すという当人が娘である ○実は誰某がお前の本当のお父さんだと ○余次郎が広田の居候だという ○相手の三四郎がそう流暢に頼まれる必要のない男だから △平幹次郎がメロドラマの主人公 ○君が発起人だ ○先生が大変な酒飲で △誰が誰やらさっぱりわからない ○教育を受けるものが悉く偽善家であった 【具体物】○その牛が馬肉かもしれないと 【場所】△そ

の法律事務所が松本さんの職場 ○女のすぐ下が池で ○鳥の先が森で ○座敷の後が茶の間で ○その後が派手な赤煉瓦のゴシック風の建築である
△今の日本海一帯が大きな山岳をもった陸だった 【抽象物】○母の言条が全く事実を離れた作り話でないのだから △地味なしごとにもじめに取り組むことが、進歩と変革に参加することであり △今度の事件が単なる詐欺未遂事件か ○その上に書いてある字が女の手蹟らしい △ワルシャワ条約機構首脳会談がもし同機構の政治諮問委員会であるなら 【時間】○そういう人に来て過ごす時間が本当の時間で △いちばんハッスルしていただく時期が「活動期」 △六月中旬までが春スキーのシーズン

これら全体としては、一種の同定の表現で、論理学の「AはBである」のような表現もここに含まれよう。自然語の論理はさらに広く、主語にも述語にも何らかの修飾語がついている。これらのうち、「前は……」「後は……」「横は……」の表現や、「昔は……」のような表現は、述語がたまたま場所あるいは時間のものであることがあるわけだが、本来は次の主語と述語のワードクラスの一致しないばあいのあるもの (b1) と同種の表現である。いずれにせよ、主語のワードクラスと述語のそれが一致するばあいというのは、作業過程では、ひとまとめにすることができよう。

b. 主語のワードクラスと述語のワードクラスが一致しないとき

b1. 主語と述語が交換可能なもの

【時間空間】△普通の判定は主文が先だが ○物足りる工夫はいくらでもあるがまあ電車が一番の初歩でかつ尤も軽便だ 【数量】△三、四年生が半々 △合流付近ではやが十年後 △湯川はやまめが十前後 △二年生の担任は過半数が女の先生 【原因・動機・目的】△つかれが原因 △軽装備で登ったのが原因 △これが出場をためらう大きな原因 ○自分がこの変化の原因 ○これが三四郎のあわてた原因 ○野々宮と美弥子が話していた談柄くだんべい) が近因である △この「氷点」のヒットがきっかけで △請求の訴えをおこ

したのがきっかけ △……に乱暴したのがきっかけで ○それ自身が目的で
○親切自身が目的でないばあい △「義理を欠いた」というのが理由で △
今後の実行が課題である

以上のうち時間・空間はaのなかの前、横などと同じ種類の表現であり、時間
と動機などは内面的な連絡が感じられる。数量については、たとえば「過半数
が女の先生」は「過半数の人が女の先生」とも言い換えられる表現。

交換可能なものに、なお次のような【価値判断】を含むものがある。

△ことばのぶつけあいが見ものである △帰ってきてからの発言が聞きもの
△安上りが魅力 △第三局の作戦が焦点だった △……を確認することが勝
負のポイント △不況対策が重点 △生活のあるメロドラマというこがこの
画の基本で

「ぼくはうなぎだ」の種類の表現は、このような計量的な調査ではあまりしばし
ば現われないが、そのような表現でも主述可換なものがある。

△「人工頭脳」などがその秘密です

b2. 主語と述語の内容の交換をふつうはしないもの

○この劇烈な活動そのものがとりもなおさず現実世界だとすると ○句こ趣
が俗謡なもの △町中が日本デー ○あの色あの形そのものが一種の表情な
んだ

【動作】△マリナブラディが日本でロケ中

a類b類ふくめて全体として主述の結びつきはかなり自由であるが、計量的な
見地からみると、かなり型があるように思われる。それを以上に示したつもり
である。

c. 副詞述語。

△零細なものがほとんどで、 △勲章を贈るのはリーチ氏がはじめて ○あ
なたは東京が始めてなら ○ということばを聞いたのはこのときがはじめて
である △この「終末の国」がはじめてだけに

このばあいには a, b の数量, 時間などと似たような構造である。ばあいによっては主述可換

2. 形容詞述語

形容詞の意味用法記述の大きなものとしては西尾寅弥「形容詞の意味用法の記述的研究」(国語研報告 44)がある。同書中の「属性の主体と内容」の章でこれに関係した内容を取り扱っている。その分け方は、広汎なものごとの属性、ものに関する属性、ひとに関する属性、ことの属性、のようである。今ここでは、大筋をこの分類に従いつつも、作業の過程で「分類語彙表」(国語研資料集 6)によったことと、名詞の分類については小論「言語処理からみた日本語動詞の用法」(CL 研究委員会資料 情報処理学会)によったことで、多少の相違を生じている。

形容詞の主語についても、他のばあいと同様、形容詞の属性(たとえば「かけあしがはやい」と、その文の話題(「あの女ははやい」と)とがありうるし、ことに後者のばあいは名詞のワードクラスが定めにくい(名詞の b. のばあいにも同様の事情がある)。

形容詞のばあい、用例はもとの範囲のデータのすべてを示さず、任意省略した。

- a. 広範なものごとの属性 従って「が」の前の名詞の word class はいろいろ
- 【ない】【抽象的關係】○まだ会ったことがない ○長いことばを使ったことがない ○五六人しかみたことがない ○いまだかつて聞いたことがない ○富士山を見たことがないでしょう ○ぼくはあんなところへは行ったことがない ○love をしたことがないものに女がわかるものか △世界に例がない ○こうして遠くから眺めている甲斐がないじゃありませんか ○講義が面白いわけがない △この訴訟は勤評提出がないことの確認を求める ○迷惑を感じている気色がさらがない ○ちっともしまりがない △勇氣はあっても力がない △能力がない △胃腸障害がない ○大学に出るひまが

なかった ○きわだったあいさつをする機会がない ○重苦しいところがすこしもなくて ○まだ行きたいところがない △煉瓦石のミイラと選ぶ所がない △おこげや吹きむらがなく ○重みがない △大差がない △話しあう余地がない ○想像する余地がない ○悲劇を悲劇として味わう余地がない 【人】○しかし誰も決して返したものがない △一人も申請者がなかった ○年寄の親がなくて △あまりなり手がない ○今に借り手がなくて 【行為ほか】○意気地がない ○接触する気がない ○追求する気がない ○度胸がない ○死ぬ気がない ○決して行く気遣いがない ○憎気がない ○信用がなくてね △このこわされた顔形には笑がひとつもなかった △張りあいがないわ ○まるで張り合いがない △今慾がない ○罪がない ○まるで訓練がない ○医者をむかえたおぼえがない ○経験がない ○興味がない ○婆さんが知ろうはずがない ○別に判然した考えがない △完全な証明がない ○しかたがない ○いまくだすってもしかたがないわ ○手の出し様がない ○ほかに言いようがなかった △応答がない ○申しわけがない ○権利がない △被告として資格がない 【もの】△あるべきときにあるものがなければ △ネクタイがなくても ○鉛筆がなくて ○ほろきがない ○反響がない ○よどみがない ○まったく実がない 【相】必要がない ○不都合がない

【同じ】○釣りランプの位置振動が振動の大小にかかわらず同じである △所要時間が自分の計画と同じ

【多い・少い】△しっかりするものが多い △ねじまげたものが多い △やってくることが多い △飛車の交換はよいことが多く △傾けられることを示唆する兆候が多い △修正が行なわれていると見る向きが多い △中共路線を指示した場合が多く △風の強い日が多い △人員が多い △時間だけつとめる人が多い △結婚しているものが多い ○行くにしたがって人が多くなる ○女には自信が多いですね △学生の方が多い ○見物人が多い △女性ファンが多い △書店が多い △慎重な声が多い △意見が多い ○う

そが多い △あまり長続きはすまいとする見方が多い ○結婚の申し込が多い ○星がおびただしく多い △株が少ない △強電の論文が少ない △国電の保護への信頼に依存する国が少ない

【よい、わるい】○どっちがいいか ○何がいいか ○その方がいい ○石のすわりがよくない △調子がよくない △具合がよくない ○都合がいい ○しゅろの木を五、六本植えたところがいい ○僕は戸外がいい △格好がいい ○姿勢がいい ○誰がよかろう ○三四郎は人がいいから ○元気がいい ○心持がいい ○物覚がよくなって △君は文科か法科がいい ○好きな人があるまで独身で置くがいい ○人品がいい ○顔色がいい ○色艶がいい △その音がいちばんいい ○日よりもいい ○いつまでもうちにいるがいい ○君に貸しておく方がいい △保存しておいた方がよい △反能までもどるのがいいだろう ○おいでになった方がいいでしょう ○時々行くがいい ○勝手にするがいい ○あれが一番いけない △産業機械が建設機械をのぞき特に悪い ○色が少し悪いようです △映画の質が日本映画としては珍しく良質だった ○胃が悪い ○説明しかたが悪い ○気味が悪い ○具合が悪い ○心持ちが悪い ○細工が悪い ○始末が悪い ○建て付けが悪い ○森の女という題が悪い ○都合が悪い △仲が悪い ○場所が悪い ○東京の者はみんな利口で人が悪い △評判が悪い ○病気が悪い ○きまりがわるい △ご機嫌が悪い ○場所が悪い ○うつりが悪い ○区切りがわるい ○ヴァイオリンは和製で音が悪くて

【真・正】△授業料を数倍引き上げるのが正当だ △この自信が正しいかどうか ○それが当然と心得 △処分するのが当然だ ○どっちが本当なんだか

【普通・非凡】△さわやかさが抜群

【必要】○あなたが金がお入用じゃなかったか ○解決が必要 ○勇気と決断が必要 ○主人公が必要 △行動することが必要 △拡大していくことが必要 △推進をはかることが必要 △有能な首相補佐勢力が必要 △団結が必要

要 △注意が必要 △全員の同意が必要 △十二分の配慮が必要 △137 cmの幅が必要

【便利】○よし子がそばに居てくれる方が便利 ○一人でも味方は多い方が便利

【調子・出来】○ともかく謝る方が安全だ ○この方がうまい △ポーズがうまい ○すべてが平穏である代りに ○人がいては、金を返すのが、全く駄目の様な気がする

【一番】△生地ホテルなみのシーティングが一番 △引きとってもらうようにするのが一番

【圧倒的】△一般番組 教養物が圧倒的

【大切】△バランスがとれていることが大切 ○信心が大切

【数量】△ジャスミンの香りがいっぱい △どれをとってもパリの香りがいっぱい △かずのこがいっぱい △楽しさがいっぱい △化学兵器がいっぱい ○日の光が乏しい ○孟宗藪の竹がまばら △英文和訳式英語がほとんど ○米国の引退実業家がほとんど △指導が十分でない

次の例の語は対象語を要求し、二つの「が」をとるが、主体の前の「が」は人、対象語の前は人、もの、行為などいろいろである。

【好き・きらい】○この日が一番好き △吉信ちゃんが生前好きだったバナナ ○果物が大へんすきだった ○絵や文学が好き ○英語が好き ○野々宮が好きかいやか ○相手にならないところが憎らしい ○口をきかないところがゆかしく思われ △冬が大きらい △ネクタイがきらい ○広田さんの所へ行くと女の裸体画が懸けてあるから、女が嫌いなんじゃなからうと云う説である ○戸山の原を通るのがいやだ ○出るのが嫌なら ○晴れたのがうらめしい ○私は縁あって、この家へ方付いたものですから、たといあなたが御いやでも私は決して出てまいりません ○控室へはいるのがきらいで ○あなたは高い所を見るのが好きのようですな ○かけまわることが好き

【ほしい】○金がほしい △ベッドがほしい 看護婦がほしい

【苦しい・こわい】○筆をとるものの責任がおそろしくなって ○ことばのはこび方がおもくるしくなって ○朝おきるのがつらい △はっきりしないのがどうにも不気味 △財政がますます苦しくなって ○こみあった客車でもなかったのが急にさびしくなった

【めんどろ】○歩くのがめんどろ ○計算がめんどろになって

【楽しみ】○池のまわりを散歩するのが楽しみだ ○買いものが楽しみ

【おもしろい・うれしい】○講義がおもしろいわげがない ○「偉大なる暗闇」という題がおもしろい ○借りるのがおもしろくないようだったら ○広田先生の会話がおもしろかった ○母の手跡を見るのがうれしい ○ばかっているところがおかしい

【はずかしい・ほしい】○野々宮のことなど聞くのがはずかしい △人気を捨てるのが惜しい ○旅行をするのが惜しくって ○そばをはなれるのが有難かった

対象語とはいえないが二つの「が」をとるもの

○年が若いからだろう ○先が忙しそうなので ○あの女はしんが乱暴だ
○妹の方がちょっとみると乱暴のようで

「に」をとるもの

○筆の使い方がなかなか不なれなので

b. 人に関する属性

「が」の前は人。

○どっちがのんきかわかりゃしない ○いくらぼくがのんきでも ○そこがえらい ○女がえらくならなくっちゃ ○むこうが大いにえらいか ○自分が世界で一番えらい ○三四郎は自分がいかにも愚物のような気がして ○女が毛糸にはまるで無頓着で △五社が本気になって ○広田先生が病気だというから ○小川が病気だ ○藤さんがもっとも適任だと ○女の方が万

事上手 ○三四郎がことのほかまじめ ○相手が正直 ○下女が非常に憶病
「と」をとるもの

○兄さんが広田先生と仲よし

c. ものに関する属性

「が」の前は+con。figurativなものもある。

【空】○あいにくビールがみなからである

【新旧】○昼間見るとそこだけ色が新しい

【強弱】○かんしゃくが強いので △反米感情が強い △という傾向が強い
△おかげで足が強くなった ○光線の圧力が強くなる △出力が上がった兆候
や音が強いという事実 △大陸の高気圧が強くて △見送り気分が強くて △自
覚が強くなった △地合いが強ければ △進学競走がはげしい ○風の力が
はげしい

【状態】○びんがふわふわする ○ひげのかげが不明瞭にもじゃもじゃして

【鋭・鈍】○感受性がにぶい △目が鋭い

【形】○四隅と入口が丸い

【高低広狭】○小山が一段と低く ○額がお光さんのようにだだっ広い ○背
がすこぶる高い ○蚊帳が狭い △幅が狭い ○へやが狭い ○肩身がせま
い ○天井が高い △間隔が長い ○髪が短い ○世間が広い ○日本より
頭の中の方が広いでしょう ○目の前が広くなる ○額が広くって

【大小遠近】○塊が大きい ○秋が深い ○耳が遠い ○きめがこまかい ○
ものが小さくなる

【軽重】○細君のお尻が離縁するにはあまりに重く ○足が重くなった ○頭
が重い ○心が重くなる ○三十円が重くなる ○頭が軽くなる

【感覚】△耳がいたい ○肩がいたくなってくる

【明暗】○世界が急に暗くなる

【色】○表紙が赤黒くなって ○屋根の下が一面に赤い ○家が黒いほど ○

だいいち色が黒い ○ひたいのところだけが砂で白くなって ○けやきの技の奥が白くなる時分 ○前垂だけが真白だ

【美醜】○総体が総体として美しい ○この色彩がどういふふうにきれいなのか ○顔がみんな美しい ○誰が目立って美しいか

【臭】○へやのなかが熱くさい

【材質】○水が汚い △ひげがこい ○顔全体がやわらかい ○肉がやわらかい ○骨そのものがやわらかい

【気温】○病院があんまり暑いものだから

【花】△つつじが満開（植物）

d. ことに関する属性

「が」の前は+abs, +act。

【品位】○その言い方が下劣 △録音以前の選曲や演奏がくだらなければ

【単純複雑】○質問があまり単純なので ○装置が面倒なので

【値段】△掛金が安くなる △料金が安くなる △運賃が安くなる △その方がかえて安上り △特許を買う方が安上り

【時間関係】○電車に乗って駈けて来た方が早い ○裏からまわった方が早い ○あんまりでき方が早いので ○野々宮君のかけつけ方がおそい ○時間がおそくなれば

【特別・異様】△この分野での活躍が目ざましい ○講義がわからないところが妙だ △泣き声が特有 ○字遣いが異様

【詳・あやしい】△成否が明らかになる △公私があいまい △区別があいまい

【その他】△政策が民主的 △彫刻が不振 ○近所が物騒

e. Valenz がちがうもの

e1. 「て」につくもの

○おそくまで待っているのがさみしくっていけない

e2. 他の語について動詞の Valenz を変える

○着物が描きにくくなる (←着物を描く)

自動詞のときは不変

△遺族がいにくくなる

「たい」の例。

○めしが食いたくなった (←めしをくう) ○芝居が見たい ○菊人形がみたい
○辻占が買ってみたくなくなった

△私が会いたいと思っていた人 △そんな時は彼女の方が泣きたくなくなるという

f. 日本語形容詞の Valenz のリスト

西尾寅弥「形容詞の意味用法の記述的研究」(国語研報告 44) の 13~14 ページに示された表と、本稿で分析したことを合わせて、日本語形容詞の Valenz の表を作った。この際、細部についてはかなり省略があり、きわめて大まかな分類であることをことわっておく。

データとしては、新聞用語調査 1 紙 1 年分も利用した。

リストの内容については、本報告書所収の「日本語の生成語彙論的記述と言語処理への応用」の「1. 述部の構造」のなかに収めてある。重複をさけて、ここでは省略する。